



浦和大里小学校だより

10月号 令和7年9月30日発行

教育目標
夢と希望をもち、
人間性豊かで
心身ともに
たくましい子の育成

耳をすますと

校長 中野 緑



耳をすますと、コオロギの鳴く声が聞こえるようになりました。長く続いた暑さもようやく落ち着いて、秋らしい風を感じます。虫の出す音を「声」と表現するのは世界を見渡すと少数派のようです。多くは「雑音」と認識するため、「うるさい音」、もしくは「聞こえない」という人もいるとか。わたしは、「美しい」「楽しい」と思えるものが一つ多いなんて嬉しいな、と思います。

校庭に目を向けると、熱心に逆上がりの練習をしている児童がみられます。2階の職員室からみていると、一緒に練習している友達に手のひらを見せながら何か言っています。マメができているのかな。アドバイスを受けているのかな。「がんばれ、あと少し。」と祈る思いです。

眺めているうちに、3年生の担任をしていたときのことを思い出しました。

「先生、なぜ逆上がりなんて練習しなくてはいけないの？」

確かに逆上がりができなくても、社会に出てから困ることはなさそうです。「逆さ感覚を身に付けさせるため」「体幹を鍛えるのによい運動だから」など、様々説明できますが、私が一番気に入っている答えは、「努力して成功する体験をしてほしいから」。逆上がりは、ある程度練習を積み重ねないとできるようになりません。だからこそ、クルンとまわられたときの喜びもひとしおです。喜びの大きさは努力の大きさと比例する気がします。逆上がりができただ友達をみんなで囲んで喜ぶ声や、給食の時間に牛乳で乾杯したときの歓声などが、よみがえってきました。

10月25日は楽しい運動会です。学校行事を通して身につけたい力は何か、改めて職員と確認し合い、どの学年もめあてをもって行事に取り組めるよう促しています。役割を果たすこと、全力で走ること、表現することなど、どれも努力が必要です。特に高学年は、係活動や応援団、金管バンド、選抜リレーの選手など、役割がいくつもあって、忙しく飛び回る日々。子どもの様子をよく観察して、認め、励まし、最後まで伴走していきましょう。やりきった先には充実感が待っているはずです。

今日も校庭からは元気な笑い声が聞こえてきます。友達を呼ぶ大きな声も響きます。学校は、私の大好きな音にあふれています。静かに秋が深まっていく中、子どもの心の発露である「声」を、耳をすましてききとってほしいと願っています。